

---

# 月

宇ノ鹿 すい

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
月

【コード】  
N8963X

【作者名】  
宇ノ鹿 すい

【あらすじ】  
ああああああああああああああああ

暖かみのある太陽の下は全てを映し出すことが怖いと聞こえた  
それはお互い様だよと気楽に言えたら月の下で凍えるそれを看取る  
ことにはならなかった 砕けているのは元々か 際限なく悔やむこ  
とができてよかったと思う どうでもよいことばかりだったから  
その感謝を述べるために認識を強めてきたわけではない ただやは  
り暖かみのある太陽の下は全てを映し出すことは怖いと聞こえた  
勿論まったくどうしようもないというほどじゃなく 多少の心得が  
あるとしても 全ての可能性 否定 その恐怖を拭い去ることはで  
きるわけがなかった それはどの状況でも同じ事だと知っている  
間違いないでも無理かもしれない でもどちらかが最後を或いは最  
初を しかしはつきりと宣言しなかったら いつだってでもこれで  
いいんじゃないのもういいじゃないかなんてのは どうでもよいこ  
とに対してでしか通用できないことだ ああそうかと思った期待を  
しているんだと思った それをしなければ良いのかなと思った そ  
れが正しいのかなんかわからず負担が益々と ああこんなことじゃ  
なかった全てがどうでもよいと まるで地底に住む何かしらのよう  
なそれが言う その時が来たのかもれないよ と意地悪なことを  
述べた老人に唾を吐き返した 自信はないわけじゃないよ でも不  
安は当然あるじゃないか 期待をしているからいけないんだ 期待  
をしているからいけないんだ 期待をしているからいけないんだ  
何かを変えてくれると思ってるんだ そうだ救われる 変わる 救  
済してくれる 何かがある  
老人はせせら笑い なら何故わたしがまだ生きていると思う？ と  
不気味な嘲笑をやめない ああそういうことかい お前は下手糞だ  
つたんだな と老人に言うと 老人は塞ぎこんだまま二度と言葉を  
話さなくなつた

ざまあみろよ とせせらわらつてから月を見上げた 太陽の昇り上

がる時間ではない まだ

決心できるときがくるのだろうか とひとりごちた背中をせせら笑う奴がいる 無数のせせら笑いは何時だって あの老人のように他者のみずぼらしい姿を笑って 自分の世の中で生きるスペースを怠惰で怠慢でつまらないものに変えているように見える 生産性のない発展性のない将来性のないって何で嫌なんだろうって思った時に ああ期待をもうさせてもらえないんだな という絶望が嫌なのかもかもしれないと認識し 月に向った

月は広いと噂で聞いている 宇宙に手を伸ばし そういう綺麗なものに縋って醜い停滞を 絶望や失望を 見ないようにしようと思空を眺めたというわけだ

自分が期待を裏切るのか それともあなたが

それはまだわからない でもそんな考え方は嫌だなんて月が言っただから従おうと思った

その流れいく自然に身を任せても良いと思った 太陽は昇るだろうかと思案した

そのときはもうすぐなのか まだ先なのか

正直月を好ましい自身は まだ太陽の昇り上がること拒んでいるというなさけない体たらくで 結局 また暖かいお茶を啜っていたでも寒い人を 暖められたならとも 思うのだった

月は満月 星は煌き 部屋の窓 聞こえる歌 向う音 一人の音 孤独に慣れた疎外者 最低だと思つ時 最高だと思つ時 どうでもよくないと思わせてくる唯一 それは奇妙で 実に奇妙で 血を拾い上げるような

気になるんだねと影が言った  
仕方ないだろ、としか言えなかった

奇妙だね 血を拾い上げるような  
またそれを言った 結局それが気になるんだよね  
だから これを分かってくれたいと思った  
でもわかってくれるだけでもいいと 言うよ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8963x/>

---

月

2011年11月11日08時49分発行